



# 大西さとし 市議会だより

2011.10  
No.002



## 高松市議会 9月定例会の報告

高松市議会は、9月6日から9月20日の15日間、平成23年第4回定例会（9月議会）を開催し、平成23年度一般会計補正予算など21議案と4件の人事案件が提案され、各委員会に付託された議案に対し委員会審議の後、可決いたしました。また、陳情3件は全て不採択とし、22年度の一般会計など決算4件は継続審議としました。

私が所属する「建設水道常任委員会」では、

都市整備や上下水道にかかわる「補正予算」について

高齢者の住居の安定確保に関する法律の一部改正に伴う「高松市手数料条例の一部改正」について

「東部運動公園用地の取得するものである「財産の取得」について

「市道15路線の寄与採納に伴う路線の認定」について

などについて審議し、議会最終日の9月20日に可決されました。

次に、桜川ダム建設事業に係る陳情3件については、建設に関する適法性や正当性が立証されていると判断し、いずれも不採択としました。

また、所属特別委員会である「新病院整備特別委員会」では、新病院等の整備に伴う基本計画の変更に対し継続して審議を行っておりましたが、9月16日に開催された委員会において、これまで重ねてきた論議を踏まえ

「緩和ケア」について、緩和ケア病室を4床程度設置する

「人間ドック」について、実施を検討する

との修正案が提示されたことから、「新病院基本計画の変更について」了承いたしました。

本議会では、私の一般質問の機会はありませんでしたが、今後とも、みなさまの声を市政に反映するため、全力で取り組む所存です。

引き続きのご支援、よろしくお願い申し上げます。

大西 智

## 9月定例会 市民フォーラム21代表質問の概略(抜粋)

### 財政問題について

平成22年度一般会計決算に対する受止めと、来年度予算編成に対する考え

#### < 質 問 >

平成22年度決算は、歳入総額約1,528億8000万円で前年度比0.2パーセント増、一般歳出総額約1,476億6000万円で0.1パーセント増となり、最大規模の決算となっている。また、実質収支は基金の取り崩しなどにより、約40億6000万円の黒字ではあるが、単年度収支は市税収入の減少などにより、約1700万円の赤字である。

平成22年度決算に対する受け止めと、市税収入の更なる減少が見込まれている中での、来年24年度予算編成における考えは。

#### < 答 弁 >

平成22年度一般会計決算に対する受け止めであるが、昨年度は、本市総合計画の実施計画をスタートさせた年であり、まちづくりに欠かせない施策・事業に取り組んだ結果、合併以降5年連続で最大の規模となった。

歳入の根幹をなす市税収入は、3年連続の減少となったが、地方交付税の増額に加え、経費削減に努めたことから、実質収支は40億円余の黒字となった。プライマリーバランスも7年連続黒字を堅持し本市財政の健全化は一定程度確保できた。

しかしながら、全国的な電力不足や急激な円高など、決して楽観が許される状況にはない。

24年度の予算編成にあたっては、限られた財源の適切で効果的な配分に努めることはもとより、将来にわたり持続可能な健全財政の確立に全力をあげて取り組む。

### 自主財源の根幹である市税収入確保のための、中長期的見地からの具体策

#### < 質 問 >

本市の長期財政収支は、23年度から32年度までの10年間ににおける一般財源不足額が約557億円と推定されるなど、非常に多額の財源不足が見込まれている。

持続可能な健全財政を目指すためには、自主財源の確保は不可欠である。中長期的な見地から、環境整備も含め自主財源の根幹である市税収入確保のための具体策は。

#### < 答 弁 >

持続可能な健全財政を確立するには、市税収入の安定的な確保と税収拡大が不可欠であり、これまで「市税等の収納対策の効果的推進」の取組として高松市納税安全センターによる早期納付の推進および、香川滞納整理推進機構を活用した、滞納処分の実行などに取組み一定の成果を挙げている。

しかしながら、市税収入は3年連続で減少していることから、危機感をもって状況を打開する必要があるため、女性や高齢者の社会参画の促進や、雇用の創出はもとより、企業や産業の振興の施策・事業について、税源涵養の視点から捉え直す必要がある。

今後、税収確保に有効な方策について検討していく。

## 新病院および、がんの緩和ケアについて 緩和ケア病棟廃止を再考する考えについて

### < 質 問 >

緩和ケア病棟設置を行わないという新病院基本計画の変更理由のひとつは、周辺医療機関の施設整備が行われていることにより、一定ニーズを満たしているとの見方であるが、緩和ケア病棟の設置は、市民に大きな期待を寄せられていたものと考えます。

直近の国勢調査では、初めて単身世帯が全世界帯の3割を越えており、ひとり世帯が増加する中、痛みを伴うがん患者の方が、痛みをコントロールし、かつ迫り来る死と向き合いながら自宅で最期を迎えることを本当に希望するのか疑問である。緩和ケア病棟の廃止を再考する考えはないか。

### < 答 弁 >

国においては、在宅医療を推進しているが、香川県での高齢者人口千人当たりの訪問看護利用者数は、全国一低い状況であり、その是正は喫緊の課題である。

こうした中で、新病院の「緩和ケア」は、病院全体で緩和ケアチームを充実強化しながら質の高い医療を提供することが必要であり、「緩和ケア病棟」に代えて「緩和ケア病床」を活用した「施設緩和ケア」を実施するとともに、地域で不足している在宅での看取りを支援する「地域緩和ケア」に重点的に取り組む。

「アメニティにも配慮した4床程度の緩和ケア病室」では、在宅等での看取りが困難な患者を中心に、継続しての入院治療を希望するがん患者などについても、チーム医療による適切な緩和ケアを提供していく。

## 生活保護制度について

### 扶助額 111 億円余という決算の受止めについて

### < 質 問 >

本市における生活保護の利用者数および扶助費は、増加を続けており、平成22年度決算における一般会計の歳出総額約1476億円のうち、扶助費は111億円を超えており、歳出に占める扶助費の割合が高い。

現在、生活保護制度のあり方について、抜本的改革が必要だという考え方のもと、本年5月より「生活保護制度に関する国と地方の協議」が開かれ、国と自治体間で議論が重ねられている。

本市における生活保護の扶助費である111億円に対する受け止めは。

### < 答 弁 >

本市の平成22年度の生活保護扶助費は、世界的な経済不況前の19年度と比較し、約22%増の約111億円となっている。一般会計歳出総額のうち扶助費の占める割合も、19年度と比較して約0.5ポイント増加し、約7.5%を占め本市の財政を圧迫する一つの要因となっている。

本市では、被保護者が抱える疾病、障害など多様な生活課題に対し、ケースワーカーがきめ細やかに相談に応じ、関係機関と連携を取りながら自立を支援している。

今後、被保護者のより一層の増員も含め、適正な支援体制の充実に努める。

# 活動日記



7/14 大西さとし市政報告会



7/31 高松市事業仕分け



8/10 木太百グランドゴルフ大会



8/18 はらこども園(幼保一体視察)



8/18 牟礼北小学校(校庭芝生化視察)



8/18 庵治砕石場視察



8/20 四国電労 サマーキャンプ



8/22 横須賀市(子育て支援・高齢者虐待防止視察)



8/23 横浜市(創造性を活かした町づくり視察)



8/24  
高松まつり  
総おどり



9/25 四国電力総連 スポーツ大会



9/26 連合香川 政策・制度要求フォーラム

発行:大西さとし後援会

<http://www.ohnishi-satoshi.jp>

後援会連絡所

〒760-0050

高松市亀井町 7-9 高松電気ビル7階

TEL(087)837-2777 FAX(087)837-8783

後援会事務所

〒760-0080

高松市木太町 1849-1-602

TEL 090-8696-1730

